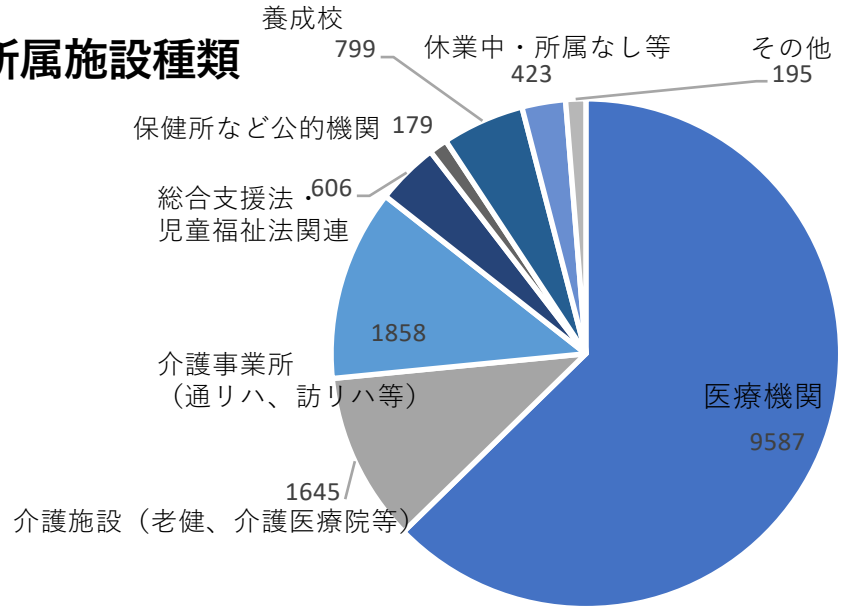
COVID-19感染症に関する
会員緊急調査　結果

調査期間：2020/4/27 – 2020/5/1

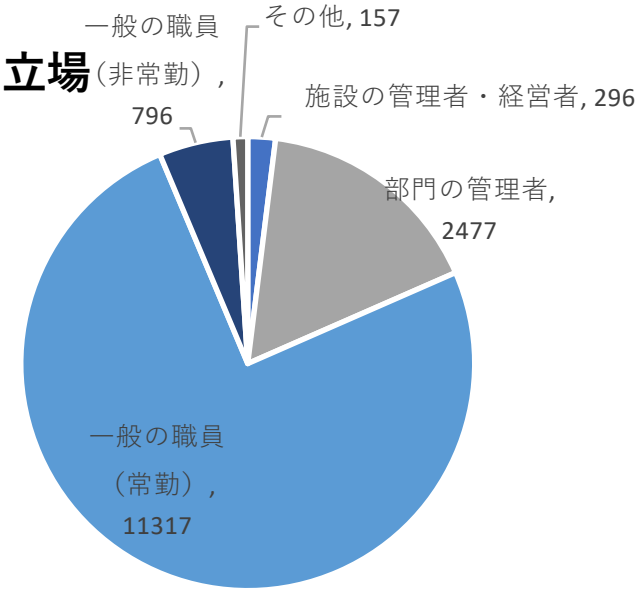
回答者数：15,292

回答者属性

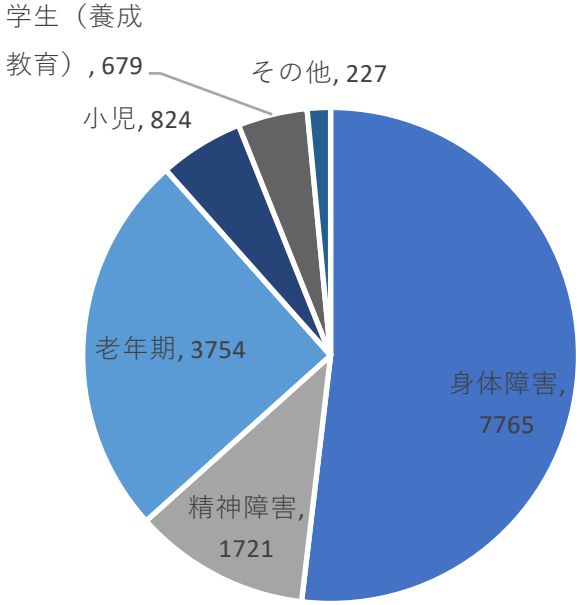
所属施設種類



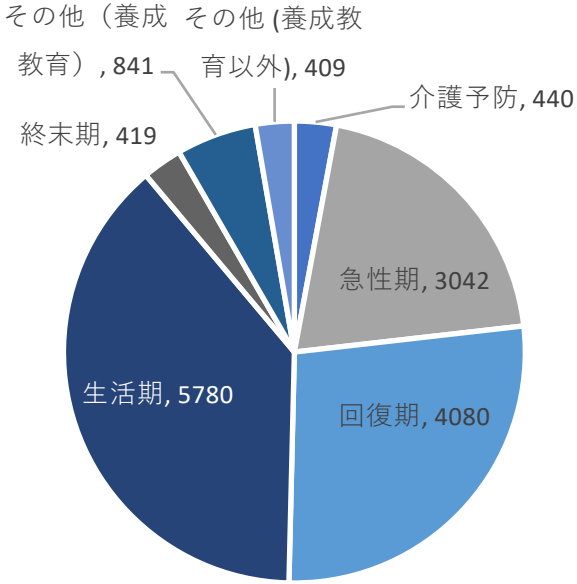
勤務施設での立場



主たる対象者

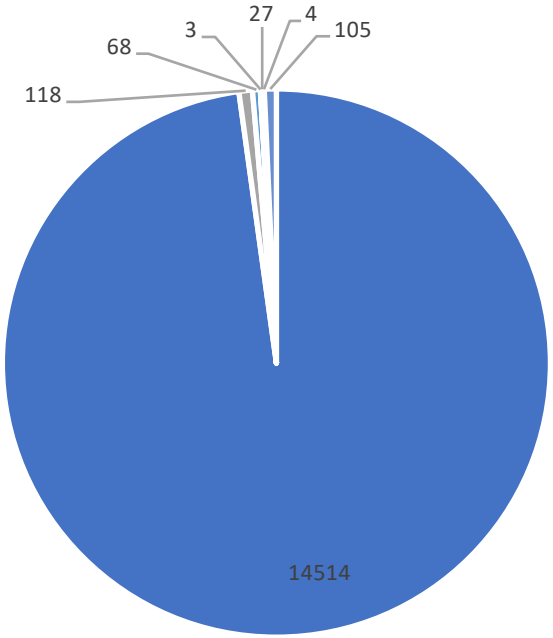


対象とするステージ



回答者の個人的な状況

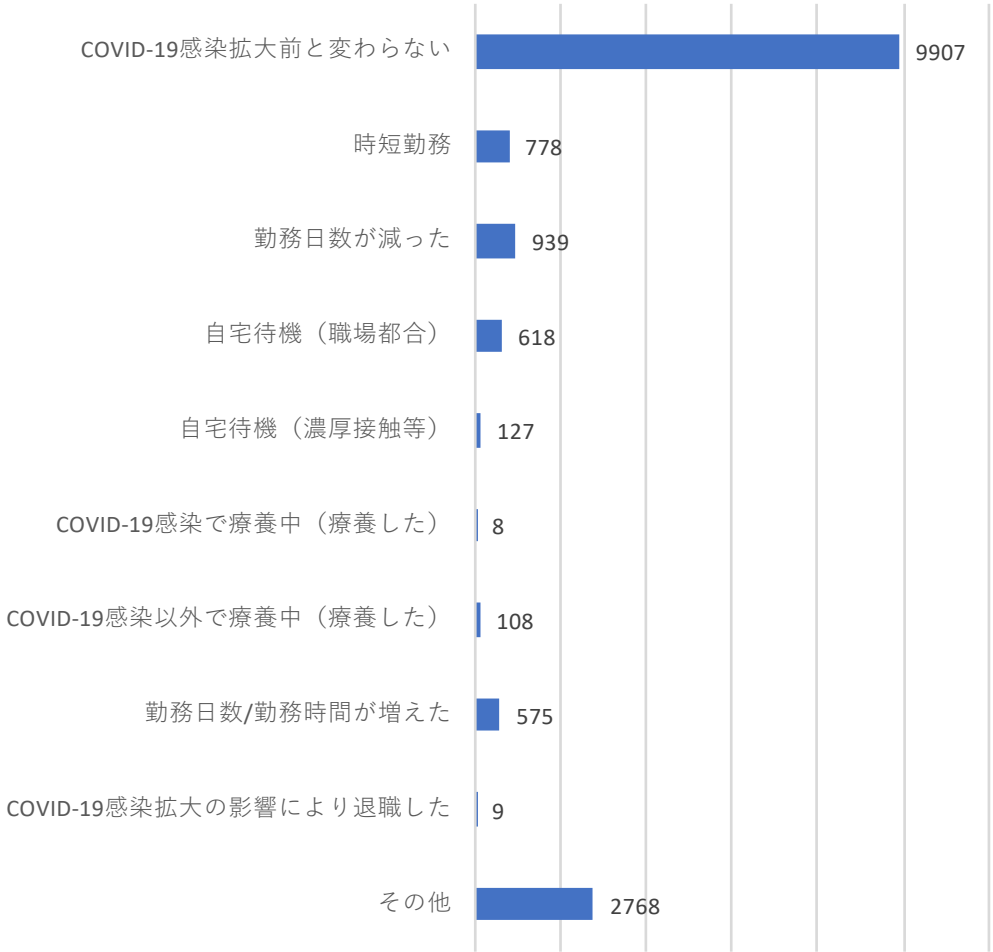
COVID-19への感染



症状なし：濃厚接触なし	14,514
症状なし：濃厚接触あり、PCR検査-未実施	118
症状なし：濃厚接触あり、PCR検査-陰性	68
症状なし：濃厚接触あり、PCR検査-陽性	3
症状あり：PCR検査-陰性	27
症状あり：PCR検査-陽性	4
その他	105

- 95%が濃厚接触も症状もないが、102名はPCR検査を受けており、数名罹患した人もいる。
- その他は、接触者が感染疑いで検査結果待ち、疑わしい症状があったが検査に至らず自宅待機した、など。

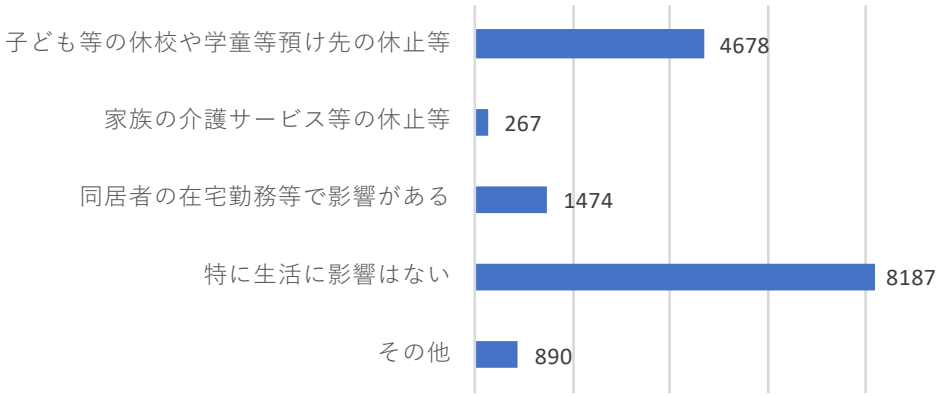
仕事上の影響



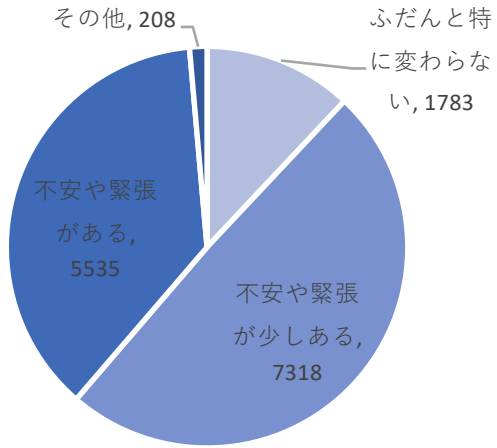
- 65%は業務への影響はないが、時短、勤務日減となっている人がいる一方で、管理者や養成校など、業務が増えている人もいる。
- その他では、業務時間は変わらないが、外来の中止や単位数の減少、テレビ会議の導入など業務内容への影響や、就職活動を見合わせているなどのコメントがあった。

回答者の個人的な状況

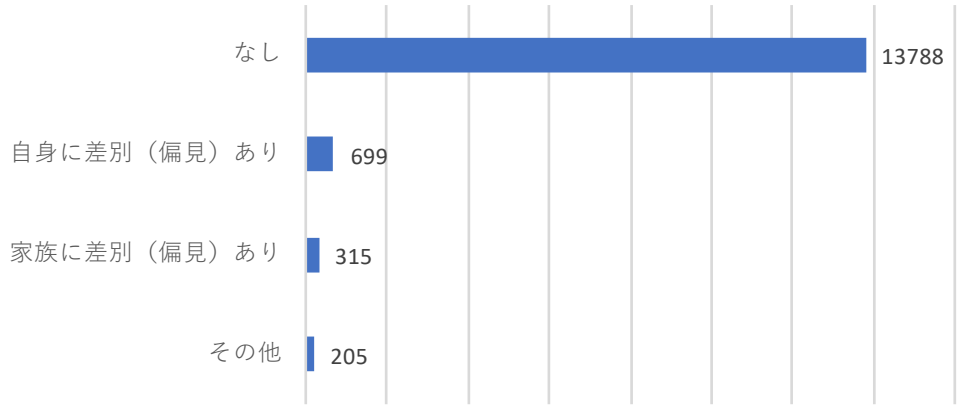
生活面での影響



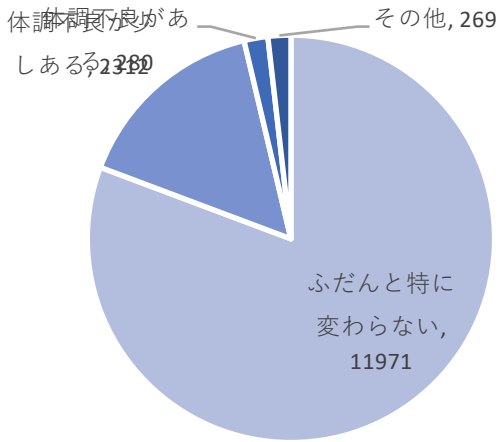
精神面の影響



医療従事者であることによる差別や偏見



身体面の影響

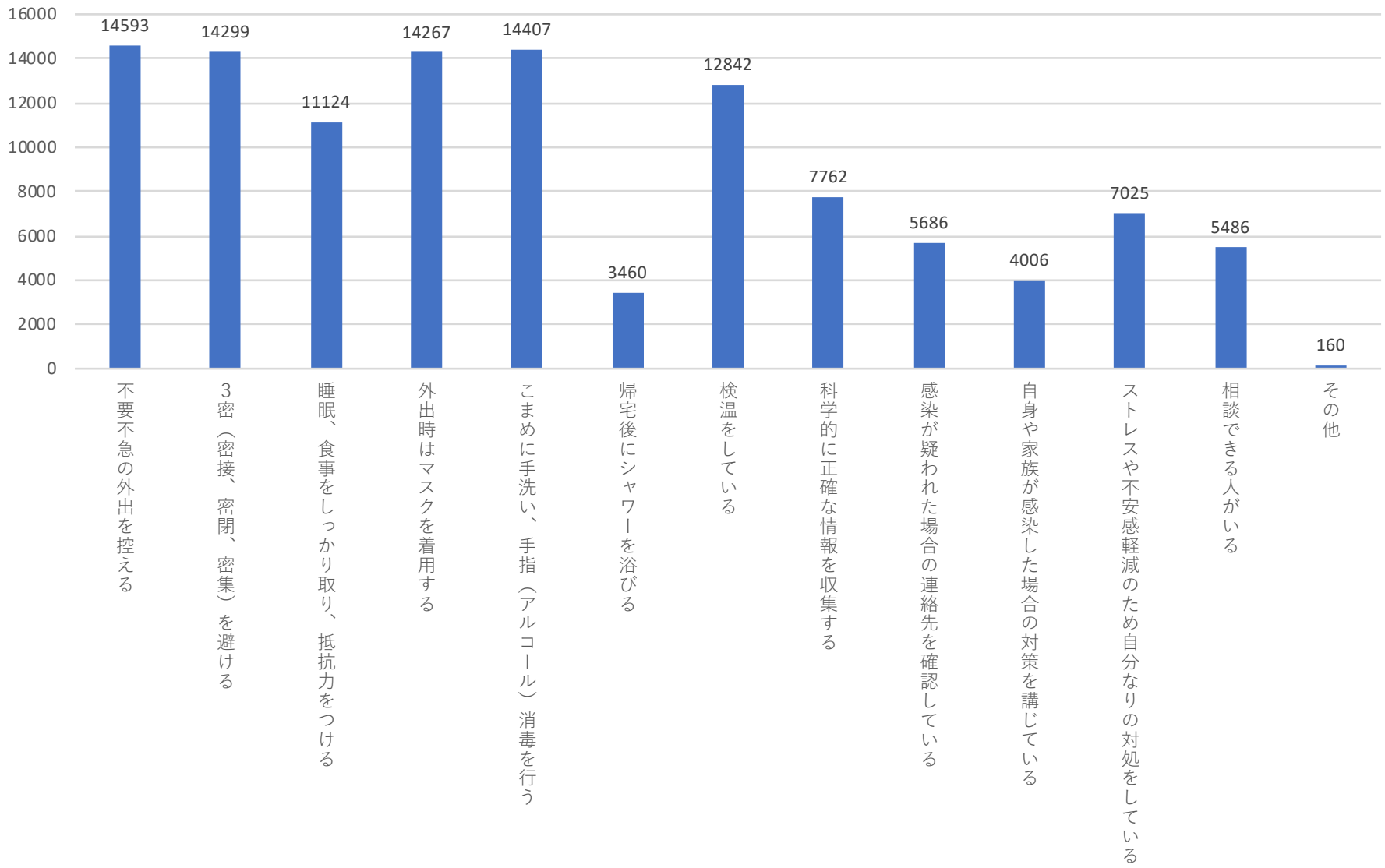


- 生活面での影響では、その他として、収入の減少 、外出自粛により遠方や高齢の家族と会えない、運動や趣味など自分にとっての大切な作業ができないといった意見があった。
- 医療従事者であることによる差別や偏見は、その他としては、偏見とまでは言えないがなんとなく感じる、自分がとても気を遣っている、というコメントが多く、他には、所属施設内でも他職種から言われる、利用者から感染していないか疑われる、といった声もあった。

- 精神面で「不安や緊張がある・少しある」が84%を占めた。疲労感やストレスを感じている人も多く、いつまで続くのか見通しが立たないことへの不安の声もあった。
- 身体的には、21%が体調不良など普段どおりではないと回答し、コメントには、運動不足、不眠などが多く挙げられた。体調管理にかなり気を遣っているという声もあった。

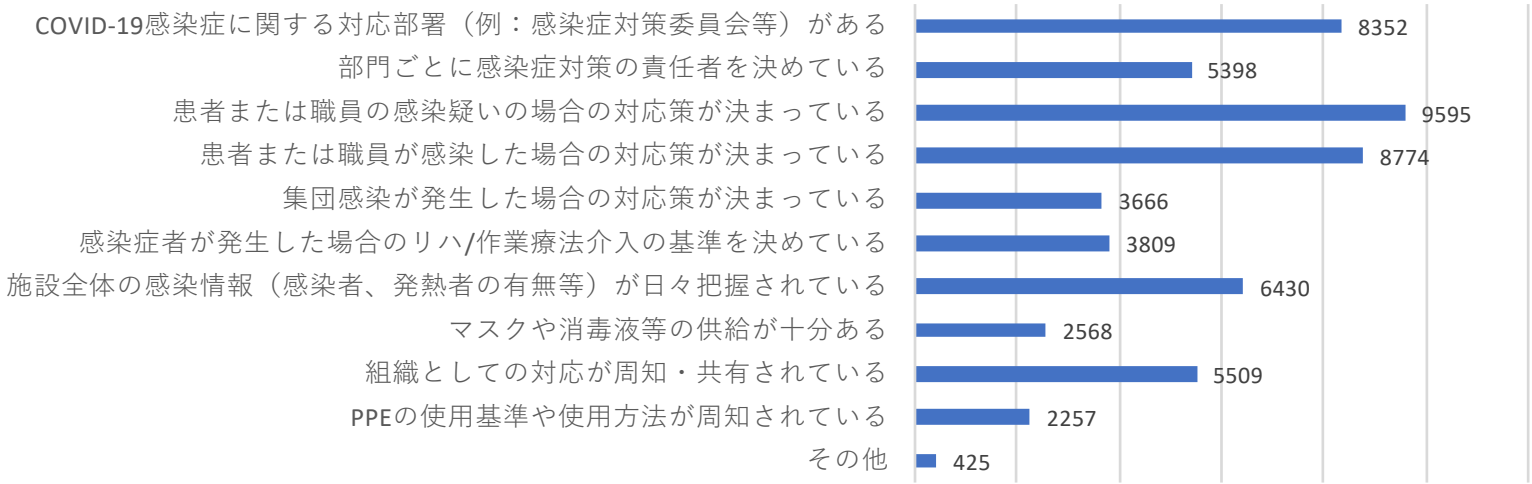
COVID-19感染症に対して個人として気をつけていること

■ 不要不急の外出を控える、こまめな手洗いや手指消毒をする、密接・密閉・密集を避ける、外出時のマスク着用の順に多く、回答者の９割以上が気をつけていた。その他に、帰宅後に着替える、出勤時間をずらす、家族で観戦予防について話し合う、等の工夫が挙げられる一方、個人として気をつけていても、業務上３密が避けられない、とのコメントもあった。

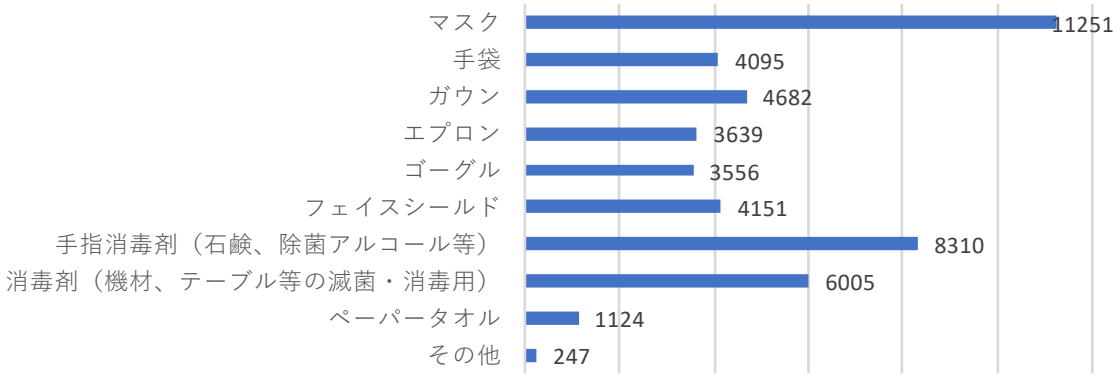


所属する施設での対応状況

本件に対する組織体制



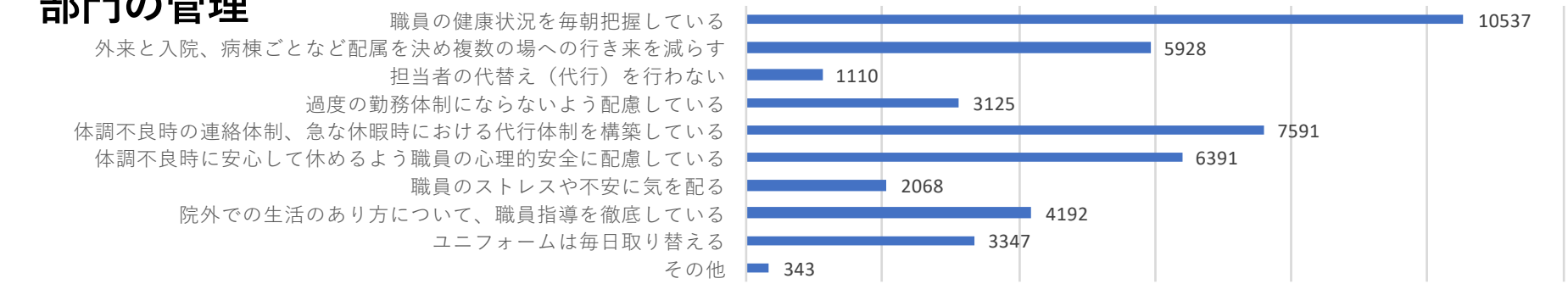
物品の充足状況（不足しているもの）



- 組織体制としては、委員会等が設置され組織的に対応している施設が一定数ある一方で、状況が刻々と変わるためその都度検討しているがその内容が職員にまで周知されていない、特に非常勤職員の場合、情報が行き届かないといった意見も複数みられた。
- 物品はマスクの不足が圧倒的に多く挙げられた。また、数を抑えながら使っている、現在は不足していないが、１ヶ月後、２～３ヶ月後には足りなくなる、ガウン等も代替できるもので自作を始めたといったコメントもあった。

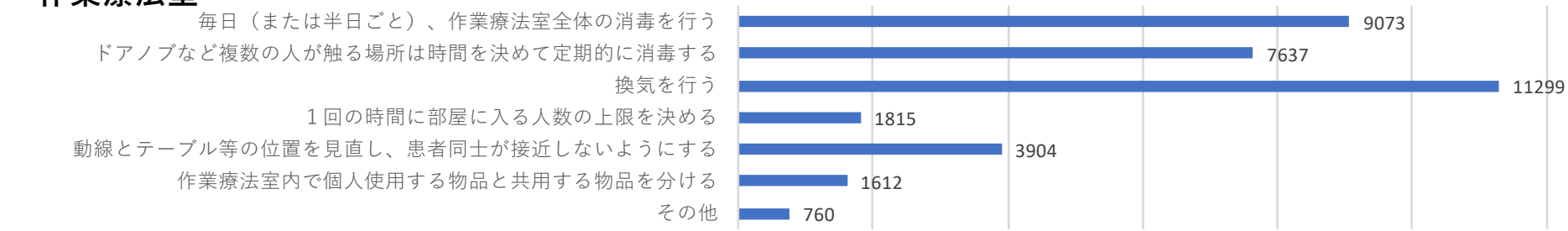
所属する施設での対応状況

部門の管理

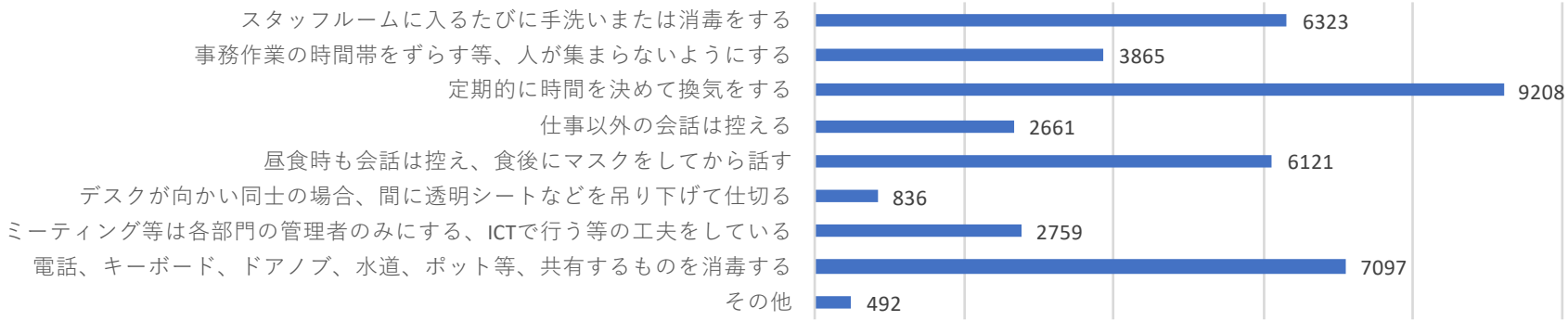


環境の管理

作業療法室



スタッフルーム

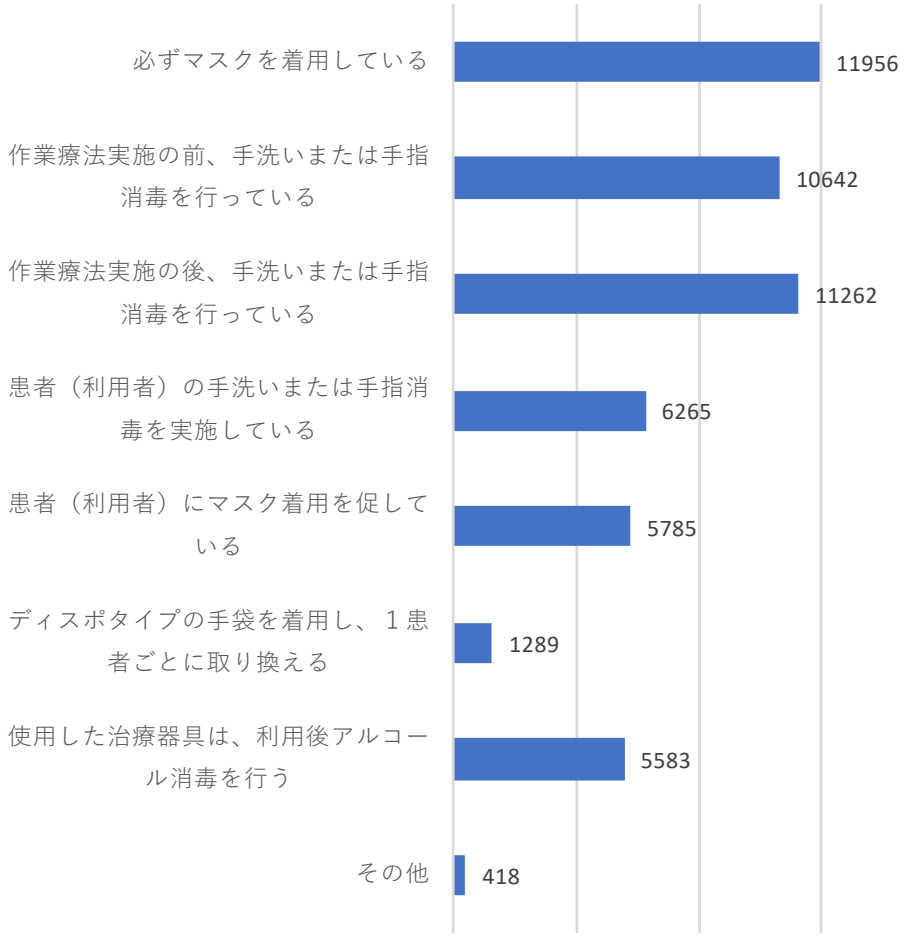


- 部門の管理では、健康状態の把握が最も多く取り組まれていた。複数の場への行き来を減らすことや勤務体制が過度にならないようにすることなどは、取り組みたいが元々の人員不足により対応に限界があるとの意見もあった。
- 作業療法室に関しては、リハ室/作業療法室の使用自体をしていない、というコメントも多かった。スタッフルームは換気と食事、対面での会話に気をつけているというコメントが多く寄せられた一方で、スタッフルームまで対応ができていないというコメントも一定数あった。

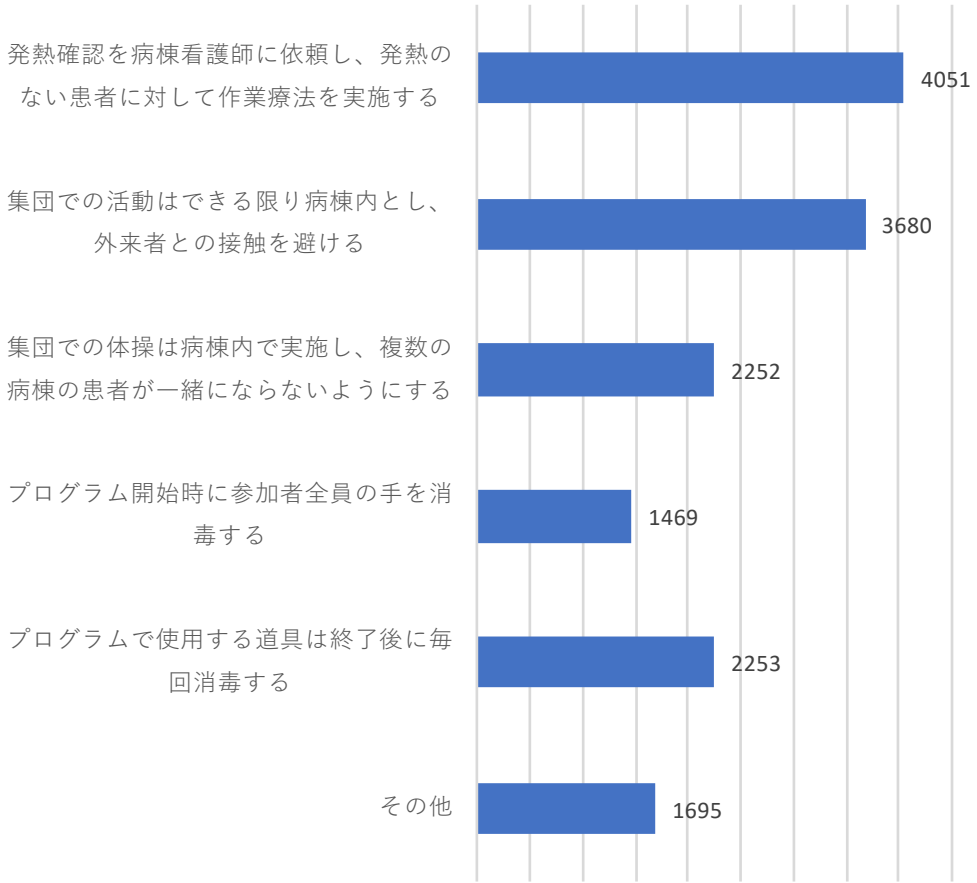
所属する施設での対応状況

患者・対象者へ接する際の対応

室内での作業療法場面



集団での作業療法場面



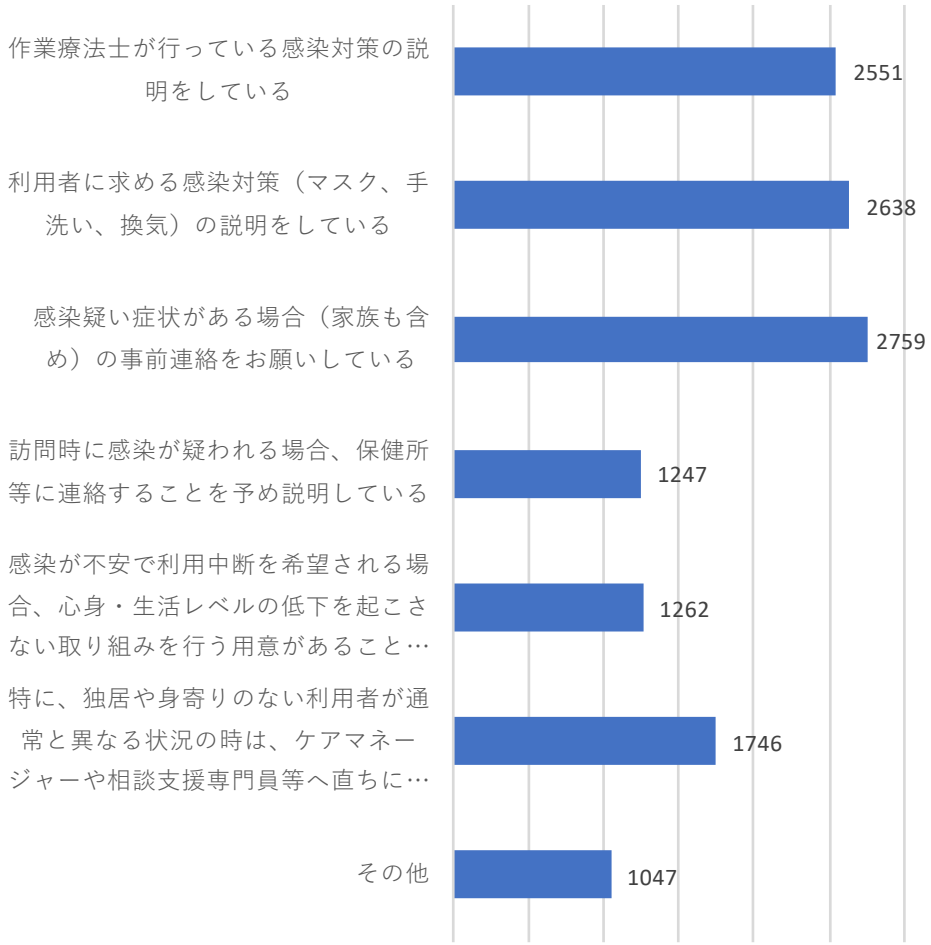
■ 手指消毒をするアルコールが不足している、対象者にマスク着用を促したいがマスクが手に入らない、知的障害や認知症の方にはマスクや手洗いの徹底が難しいとの意見があった。

■ その他には、合唱や円になって行う活動はやめてプログラム内容を変更、患者同士の距離をなるべくとる、外来やデイケアの中止、などのコメントがあった。

所属する施設での対応状況

患者・対象者へ接する際の対応

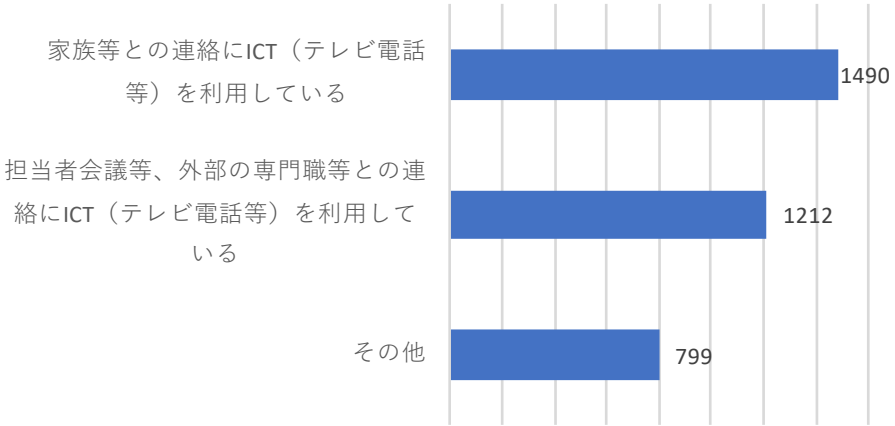
訪問での作業療法場面



■ 訪問自体がキャンセルになっている、デイサービス等が休止になり訪問が増えた、との両方のコメントが複数あった。また、医療的ケア児には訪問の代替としてオンライン療育を試行している、精神科訪問看護では電話で状況を伺いフォローしている、といったコメントもあった。

（その他の件数が多いのはもともと訪問に携わっていないとのコメントを含むため）

その他の場面



■ 家族との面会が中止されているため、写真や手紙で状況を伝えている、家族指導に動画を活用、担当者会議を短時間で行う、電話やFAXを利用する、病院の状況が分かるようにお便りを配っている、といった工夫も挙げられていた。

業務上影響を受けていること、課題や要望

- 回答者の所属機関別に主な意見を掲載します。どの領域にも共通した意見としては、職員間でも感染予防に対する意識に差があること、対象とする疾病/障害のある方へ作業療法が提供できないことでの不利益への懸念、このような状況で作業療法にできることがあるのではないか、などでした。
- 協会への要望も多くいただいており、関係する部局で対応を検討しています。

医療機関

- 外来やデイケアの休止、規模縮小、患者からのキャンセルにより、対象者の状態が悪化すること、また病院の減収
- 作業療法士自身が感染すること、また感染源になる可能性があることへの不安
- マスクや衛生用品の不足
- 精神科作業療法・デイケアとも集団が中心となるため、運用の難しさ
- 家屋調査や家族指導などの退院調整、外出訓練など活動と参加にむけた支援が困難
- リハ/作業療法実施または中止の判断基準が不明
- 作業療法を実施するうえでの指針を協会に示してもらいたい
- 職員のメンタルヘルスケアの必要性

介護保険施設（介護老人保健施設・介護療養型医療施設等）

- ショートステイやデイケアの中止、利用控え。それに伴う、利用者の活動低下や廃用の進行の懸念
- 上記に伴う収益の減少
- マスクや衛生用品の不足
- 集団での活動や行事の提供、自宅復帰支援の困難さ

介護保険事業所（通所リハ、訪問リハ等）

- デイケア、デイサービスの休止、それに伴う、利用者の活動低下や廃用の進行の懸念、事業所の収益の減少
- 訪問リハ、訪問看護は通所先が休止していることでニーズが高まっているが、感染リスクや人員不足から対応が十分にはできない
- ICTを活用した支援を評価してもらいたい

総合支援法・児童福祉法関連施設等

- 学校は休校になったが、児童発達支援、放課後等デイサービスに休止要請はない、感染予防はしているが３密の状態が避けがたい
- 休止にすることで、本人・家族へのケアが行き届かなくなることへの危惧
- 障害者雇用の求人、企業実習受け入れの減少。感染が収束したとしても障害者就労は厳しい状況が予測される
- 外部機関と連携しながら行う支援がしづらい
- 利用者、利用日数の減少による収益減

保健所・地域包括支援センターなど公的施設

- 介護予防事業、認知症カフェの休止。在宅で活動性が低下した高齢者へのフォローが課題
- 在宅の高齢者へ情報を届ける方法が難しい、体操などのリーフレットを配布しても実際の行動にはなりにくい、他での工夫を知りたい

作業療法士養成校

- 遠隔授業への対応に追われている、遠隔では授業や面談に限界がある
- 臨床実習中止により学内での代替を検討しているが、実際の場面での経験が不足し、国家試験や就職後に困難が生じる
- 実習に対する指針がなく、養成校間で差が出るのは問題
- 実習に関しての指針を協会として示してほしい

休業中・所属なし

- 就職活動が困難
- 育休からの復帰を躊躇する、家庭保育の要請により職場復帰できていない

その他（特別支援学校や矯正施設、一般企業など）

- 間接的な作業療法（対象者・家族への指導、環境調整等）を明確にしていけると良いのではないか